



大砂土中だより

はっ らっ

澆 刺 と

さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.7 平成28年 11月1日号

勇気

校長 清水 一司

8月中旬、東京の地下鉄駅で視覚に障害がある男性がホームから転落して電車にはねられて亡くなるという痛ましい事故がありました。残念なことに同様の事故は後を絶たず、10月上旬には東京のJR駅で視覚に障害がある男性がホームから転落して骨折する事故が、10月中旬には大阪の私鉄駅で視覚に障害がある男性がホームから転落して電車にはねられて亡くなる事故が起きています。国土交通省によると、視覚に障害がある方が駅ホームから転落する事故は、平成26年に80件起きたということです。また、日本盲人会連合が平成23年に実施したアンケート調査によれば、調査対象者の37%が「駅ホームからの転落経験がある」と回答したということです。視覚に障害がある方は命の危険と常に隣り合わせなのだ痛感させられる数字です。

同じアンケート調査で必要と考える防止策についての質問に対し「周囲の人の声掛け」との回答が多かったそうです。これならば、私にもできそうです。しかし、実際に駅ホームで視覚に障害がある方に「何かお手伝いをしましょうか」と声を掛けるには勇気が必要です。私自身の過去を振り返ってみれば、電車やバスでお年寄りに席を譲ろうかと迷ったものの行動に移せなかったこと、お世話になった人を街で見かけてあいさつをしようか迷ったもののそのままになってしまったことは数えきれないほどあります。私には「車内で席を譲る勇気」「街であいさつをする勇気」すらなかったのです。

「人生に必要なもの、それは勇気と想像力、そして少しのお金だ。」

これは喜劇王チャップリンが作った映画「ライムライト」の中で自ら道化師を演じたチャップリン自身の言葉です。チャップリンは生きるために必要なものの最初に「勇気」をあげています。確かに、意思決定や行動には勇気が必要です。そして、意思決定や行動には迷いを伴うことが少なくありません。しかし、私たちに駅ホームで声を掛ける勇気さえあれば、視覚に障害がある方が駅ホームに転落しなくて済むかもしれません。ましてや尊い命を落とすことも無くなるでしょう。

本年度になり、地域にお住いの方々から本校生徒の行動に対するお褒めの言葉をたくさんいただいています。5月には野球部員が道で倒れてけがをした男性に止血をして男性のご家族に連絡をしてくれたこと、9月には柔道部員が人手不足で困っていた地元自治会の地域清掃の手伝いをしてくれたこと、同じく9月には8組生徒が屋根の上に乗ってしまった小学生の靴をとってくれたことを学校に連絡していただきました。連絡をくださった皆様、ありがとうございました。私は、困っている人を助けようとする心、それを行動に移す勇気が育っている本校生徒たちを誇りに思っています。